井上通女紀行

寫本

特別
へ2
4867
55

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月前 相望テ涙痕新サラシヲリ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

昔是来時乗二西雪一
旅人堕二指望一江東
今将帰月苦炎熱
四馬回頭嘶二暑風一

[illegible]

女の地はうをいとなかさ林ん
[illegible]
元禄二年己巳夏六月十日
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

者なれハ色もすみのへにいとゝして汙
をしのこゝろにつさたえかゝるたすハ
琴聴ゝりとなのりとらるゝきゝすよ
曾子ハのゝ月しるるかはをハ
秋いろつゝをいつよ所よやゝ西ハらうく
なるゝわを猿楽もまして文りゝしれて
まゝとゝいと心こしよいまのゝつき
さたゝしゝかゝるのよたゝいてゝとゝ今
ゝ色ハ秋ゝ知つゝゝしゝ弱く
ちよゝん風枝をゝゝさんゝ月の海ゝりよ
おさ海ゝゝ枝ゝ枝ゝたゝゝとゝたゝゝる
風よゝゝゝをたゝゝとゝたゝゝ
十二月ゝゝよゝのゝはゝゝゝゝゝゝを出て

ゝゝゝゝゝゝ第ゝ松ゝゝ第ゝよ
やゝて四ゝ二ゝのゝ先ゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
道涙のゝを松ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
高くきこる沖ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
たゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
なゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
たゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

大磯駒舞地

前日各爭妍
鹿嬢共殊絶
十郎亦偏情
隣樓觀石氏
宴席殆和田
不是時宗至
使離獨戴天

夕かゝ千のてさうの河ほとりにうゑ
ふるさとのつま物のこゝろ人
あたらむけてこゝろ事なくむとんな
よつもあぬあしひろ小田原やとめはは
よ月のうたゝゑ遠項香松
十三日ふたゝび箱根にゆく

いとゝかくもたに松をこのくちきろくもを
ひるまの引ほく箱根山をこえうれ
おもふ右のうつ所もこゝ林そしをを岩
源くゝ落合ゝるもの岩をりたすやうく
むきの高なるもれるろ〳〵もなをさこゆ
松栢いとこゝろ平もの折ものを音
れゝらにうゝ平ゝ成らたのうこゝろ
木ゝの面ゝ所ゝ
たゝこ林山ゝくゝ見ゝ
ゝ所ゝ所ゝ
のゝゝもさいくゝ所を月のゝを
ゝうゝもなしむうはえさをゝし所
ゝをゝはをたゝ所ゝぬあゝゝやゝ

[illegible]

箱根　山上幾峰深ク
古木　回巖雲霧生ス
地利　自然如設險
人謀　君德共和平ス

[illegible]

石を洗ひそくちはさしたる松のかしらよりはつて
林方たとこるの傍有り義経二川三川
ゐるそこを立ちてせき有よりぬけり
行る出ぬ　蓮なかりてまいりてかたとあ
なつきこゆる浦く棄てて伊勢
嶋もりの所しくしもせくしもとて
平りの女ともくしもとれと
蓮へなりのるるを
ふいめしぬ髪は前なる袖よりかきやつて
うるむくつきたる女の色たのもしすこ
なのにさいとはらまきすきうらやふる
きてしみるかりて物うしひのすこころ
行きなくいうもしのさかそはし　右

なしひうんく若女よりくしはきくて帝
よりそうかなりて涙すりに笑ふ女
めるのしかまふかいけくとはやはつと
はしせ松らふ松うるかくいの先きはの
つるたちはめをたすをいのなりんこむねた
ふくひしはしに涙にいとうれしはてんこ
ふもなりて色ぬ涙よりいりて髪あきぬや、
ちりはねよなるぬをうれしみまま
我ふるとて鳴神はしはゆるくはやすむ
　深あるかちはは伊はりは世むらをを
　ぬさくみしは法神やうるうん
ふこ春ちめまは法
十四日はくにはやとりを　七川彦　接人ん鈴

[illegible]

なとみの高さとも[illegible]

つゆの露とこのねうき海のあなうき山の嶮かろん

富士の根はしらうき雲の布

[illegible]

江戸城のくらとは見るに[illegible]富士

の三根はうはこともりゆくたくみしたくみ山

[illegible]

うくよ相しくるむ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

仰見士峯高倚天

雲端平立徳容鮮

千秋雪色映東海

一抹烟光讓陵岡

神秀豈爭他列嶽

仙蹤猶在我危巔

鄉人若問途中事

好把是山比聖賢

[illegible]

山といふ山をたづねくるまゝに
あるりよいうてこしひとたんといふの
山和けくはて　富士
はひらとらのまいよりたり
はてをつかり照さいわして
はひて　雪のもとたりをそ
ひかこのけたふ　ふくうの
やくうとくられ　うりたり
てりりとさらてそよ　大三のも
あ　ひよりはうは　陽らんを
ふ　雪のこと　月せさは流ちもや
ま　はのこの　あ　うはおやさ
ま　はをはて　流ちはいとこやく
て　はのやうけも

富士はなら形あり　流ハ世ニぬ
高ねの雪やいはやもそらん
世のちえとこしらぬさよ　河をもとしれ
光ゆとてうち　河をふり　ふり　ゆ
をとく　薄紙　山をあの　中　ふ　七　安　河を
こうふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
立　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ひ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三保松原子浪連

作文時衣笠空去後

鉾陽鉾處憶翠遷

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
宜[illegible]
[illegible]
[illegible]
せよ[illegible]
[illegible]
[illegible]

入くるしはいてまをとゝめぬ秋あらしも
はや山のうちこゝろ[illegible]
人々のたちまちもとゝまりぬく
よろつのしらべてみうしうるめと面白
いとゝたゞ[illegible]むしろ[illegible]かゝとゝ出て
こゝみこゝうふのけそうもあぬ
ゆかりとかりひとゝ[illegible]と[illegible]月
松りしらくあらしもこたりに待日ふ[illegible]
をつまさしめくをもしもこと一上をていうこう
して惜れいゆり其かゝりよりて松よりく
三井寺うをつも此
ゆよすみりる[illegible]
[illegible]

[illegible]つゝいとゝ[illegible]
源氏物語をよすとて物えんよりはまらつ
半蔀うきを母なと源ふきてをいつあすさも
ゆはやくいたはしい[illegible]
なんををかりと泡のめとてはてしき
秋のさゝかしいひいぬ
十六日の月の月をもくきゝ月ときつくそ
をのうんてる月のなすさ月ゆうたなとさやか
中ふとのくまくいまつのちなんとなりといそれ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
月の[illegible]

海岸りよりたちくらとなすばさとせばしい
ちかしかのこのみこのんでたのむたけ
ぶるく事かはくさ神のめぐみのうちを
しらぬうえかりのもくまくれりたたをわさく
ちからひらり

西之屋かうはく神を立はりし
うすのうしこうしこそ波年
いらぬれぐれやさうの
くくへと蔵ふ杉のりか
かつら松をしかくおさとおるの松
蔵そ、ぬもしるさうの中山
なぶんりきぶのほうさくるのさはをし
ふ、ようさうて（蘭のからは分とくらふ

西山の例をうもとんこ
ぬはらものとたるをいかそまれのかなの也
こしかのこしもしかよりつを柳はいはれ見い井伊
伯蔵ら長の例をしこせのしこ百なりたよ
の門なくもくくくみの世さこはこ
故ぶれ門外の如しもたりつ蔵あるつ
ゆ遠よぶもしみるのえなのたしよいいをけ
なさけかくかはさしれける事ともいい
ま長屋こるれとしてこそこそ
くはもしのまんのつるくくれのか
をはつとりく歌うくくの物あれとのれい
ゆやこみもこと当いしよ何きこのやうよ元食しても
杉屋とと屋なくしまるさりつと蔵

[illegible]

天龍河上天龍去ル
龍去ル河留ニ水流ル
二水中ニ分ル大小ト
小斯廣掲大斯舟

詩鈔有苦葉篇深則厲淺

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

強呼旅客家内納交
粉面朱唇巧媚好
寓舎今宵何處好

共言有酒有嘉肴
[illegible]

以(い)こ河の道へつもりあるこころ
ともむしをんぶ法ちはもやとしへは八つ
ちはかやかくしてもくるしくなりぬれば
あるべきはしへ侍る所りひ侍るこかた
れたりひくもこそ法ひしてこと
人こさめる法ひの人人のもとよりそよのうたん
為ひちえあるとあるかもこと法ひすもの事ぞん
こもれ十ひ かゆ侍るうやこかもとちらや
あるかくこ所ある島ちは法ひかくあるはけまを者
ちもしと起ひくく
十八日ばかりのはるくこのわはひやとりはむれ
りへのかりる方ぬをむめるひら河いふ
ことの方をきうもちてをう清よいう法

この間は行体うれしうきみの彈事長月
はくさて町是をりつ法はきりのとるあ
りこと間くひうこ人のめとしむくきとの
とかう事こ事くいはみーうるおりきあ
ちりたるまを矢ちをるさとへやしへつ
ちもちらくほりき法
いるへの法とのふれいくしよ
とれ方ちるるるよりもやとたん
ち彩ふるるるるうんよいう
くま林こ法もしたひの衣ある
うるてたるみのうし風をつく
り法むつまーうつさはこ文とちれあるりとな
うをはるんと角くく彩法ふうん丸

いけの屋ん久市左衛門と申ものゝ所へ
参り

別こうほうしたるみたい
なるさくらとりの花さくよく
と家ものゝ逆旅よりなを小刀
やうけもの屋ゝ久きく貴ほ者の海
十九日之ゝ雨ゝ東南よりの
ほとゝぎすなりとて遠風吹くゝつきぬ
又うとゝ先ほ者りよりゝ人家ほりいと
かゝとしほ水のそみくたゝ赤なた
りうの中をおかわしてすしけ也沖と
むうしかゝるゝらゝ人をさしれと海ゝ
吹ゝ風ゝなさくゝ流者と

出船まゝて二番の者しほくゝ調く
かゝとけ出ん風うくゝふかゝゝ梅ゝ土橋
小川なゝかほゝりゝとなゝれゝ安ゝゝ
日よ水海のいきたゝ子宮市ゝいゝ下ゝ
日ゝに早ゝ宮ゝ市なゝ宮ゝゝかきうゝはき
うれけしのゝ
廿の宮の市を出ほ行ゝ
こゝく石巻師ゝ出ゝ
作りゝそれゝゝ松ゝ
ちいさ才ゝゝゝ戒たゝ
焼米ゝゝけゝゝ
行ゝひよ黄をゝの
行ゝ人ほ得ゝ

人生何事か多き艱険
千里往来す山又河
九載遠親を思ふ
再経鈴鹿思蹉跎

海ゆかば水づく屍
山ゆかば草むす屍
大君の辺にこそ死
なめかへりみは
せじ

海ゆかば水づく屍
山ゆかば草むす屍
大君の辺にこそ死
なめかへりみは
せじ

君が為
いのちをしむ
なかりけり
さきもりの
つとにたつ
とはいはれて
百つよ帰
ぬとさ
ぬるとさ
りせば
ゆくとや
情しの

[illegible]

[illegible]

なつかしう思ひ出でられて

あまとをとこ[illegible]

[illegible]山の中をめぐりて

[illegible]こゝろいとこゝろよう思ひ

[illegible]

廿一日はれ　市原より[illegible]

[illegible]

[illegible]

きけふはまた　跡垂れの水
せきけもそしを　をりのぼりたるうなれ
石ぶをみなりく　ゆうぶりこしらえ
業平朝臣の　うらの浦の　ながめは
むしろなれと　ものみの松をそのかりの
めはかりのうつるやうなる　水ぶくく

鄙多　橋上離麓裏
遥見　石山思　古人
業平　永　若　商　且遠
光源氏　語　麗　還　新
残花　秋月　浮　花前
巡禁　江湖　通　水津
天色　水容　明　若鏡

客心　附　流　埃塵

世をのがれ　ぶくく　石山の
うぶくく　ひしく　乃人
行業の女　おわの　ひとの　こよりの
ありし　山　ぶく　入　なまに
なりき　浦　わも　思　来　三の月
からだに　うくも　さ　ぶ　ぶ
二ぶ　みえさせ　ぶ　ぶ　ぶ
いくはを　たりく　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
かくも　ぶ　月　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

こゝれおちひとりむしろとて只ひとりこれ
七月の頃にて松のもとみをさはらしものは
いとうらてゆ[illegible]ぬるかたしてまたかたく
なんりの[illegible]ものかわたりくしてあをいさた
てゝうしきたるよそをむしろ[illegible]
なぶいとかいさりさこをゆ[illegible]のこみの
三井寺をもりぬあるもりかはつこゝ船
ぬとりや行あるよ秋うつをれ[illegible]いとうる
もゝくりふうなうきれるう行とはく
遊行ゆ[illegible]西ひ[illegible]くうこてちうなの
まるよいゝこてゝ元ゝ[illegible]ゆ[illegible]宮遊
かくゆうこのもゝ[illegible]りゆ[illegible]月[illegible]
いうるこうゆ[illegible]月[illegible]水ようつる

[illegible]ゆ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ゆ[illegible]心[illegible]
もりさ[illegible]ゆ[illegible]こゝ[illegible]
かゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
大津ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
こ[illegible]こ[illegible]ゆ[illegible]
うゆなこゝ[illegible]ゆ[illegible]
たゝ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]
きゝ[illegible]
[illegible]物[illegible]
かゆ[illegible]
ゆ[illegible]車よ[illegible]
なゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

よ失くなる事はまことに
なるを世間の人はゆめにしらず
みのきーはうつよ行家の人なと出すれ
ばやつとんちうはは後たまりくらいさな
ひこ所なるとはつと内浦ちは行ものそんく
きつはるとそ所きとなれとも物も
やうはつくこひたるくみはかはるはるも
浪まひこのはるとそりひまきーはなな
家とをはのとはとはつくよそくやうなるかし
はのきんとの家氏の家とは叩くそはるう
よはくきりの弟はやはおえ早世と
りとして松はるしりうくらかくるとがたなし
こたるとさとはあるこまくさあ八幡ハ

海ちくはのまさ家うるまち年月
内神とくろる物よりはるはるり石
結むつーはれと行ちをくまさくのもよ松
はるれもすちる年おそるくたするは
守くこを開くみきことはーはたり
たのをとりたるさ月いまたむそりやく
早はえ年いはくくるる帆うけた
ら年まるはくはのりとのこはくは高
よくるをふきくくはは年人はたるは
くくつとちくるくくく

と社の形をなすきりと成ること神のようと
ほと山のとなりて山から月が出ると
心ほそくなりてそこの時もそこる
さの為雖なるほどなぬ事と先と立のよ元の
伊氣河ほとりに人のうとめこあれいきこ
ゆうのきのりのなかに侍居侍てこみ
いこの河也といとうきてくて業物にて
女人のうとめいりめる侍ことりて女姫のろ
何るいとりの不河りしいこりをいとい
廿三日ニ月ニ方ニ方ニ方

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人なりとろ花もひさしくあるべきものを
ふるさと伊賀にたちとまる時ひさしぬ
すらしほとろたるよ河つぶらく
月もいとぬ

波桜あるうま近きやどけさ
こゝろはくもあるはけ
たまのふさ風作ふるよかしまく
いくよあるとろよりきぬ
明月もこゝに伊賀山へぶまちぬ
をとはしこゝにいつまとらよ誰ぞこ記
ぬとあるを
ものとうを
ものさもものふはさめとあまちと
きのとひくを武蔵庫ちとらふ

てゆくなり

姉ぶかくなるよ海は遠風
月もゆ　はの酒　うの井

ひろくくこ伊武庫より伊さぬ　のせまた
のもを和さり　試んとて和とのこ遠風
秋月　申ぶけ　ぶより風　なりぬ
そして又こまゆくゆ　いの風伊ふ吹く
帆ちなるあるひきこ　つるをかさあふ
なくこぶ　つ　月世間は和とれ
あくりやこ間りあり

伊の山いく間ちあるとりの武

秋の初風

又ありやは

ま間あるまをんは何かかくまくと文

[illegible]

[illegible]

[illegible]

這裏雖持古賢敬
無人岸上說無心

なるほどの今はけまたくさまつらいとくまるこせり
くれしてくさ早はれ風浪のうつるくものの
すれしてもみのたりさこしてとてくて
敏もたんくして

たくふれ当寺はひいふもこの内
色のへのこのねのもきくもるを
音波をる波風すこたくたすこもや
風をつるよなりぬこたくたんはいこりな
年とくくはるこりこみのいりくを西はよ
明出門はまを元くまるもは待いきはくこ
こいつをすくを年くとたりはくたんる

ふいこたいとくろりこみはのちたまろこ
くるるみはは河りくはくはやこいの家ん
進くなるまるくるんくあるちはくこちぬ
さなこさくもはのんくまくいくはは
こくくこ風こたはくこいくいくるこ
年年波くくむ河ちくあるくきこれはは
あくぬこたはくはたくはは月ちは
てうせまんはくのたくはくこくちく
はもはとはうくこくくはこくはいくはぬ
　　松ちをはこくりをたんはうはたくや
　　法こまの波乃為をくしん
はハかのくくれもはのぬ風いはくこくりと
かくて帆くはくくく

てこきりやうしゆくしゆ
ぶりのあること
一所のうるあるもの
ものの遠風にたんれ
そんあるのかきりを力を
揮保は新潟平
ばかりさせ
なりぬをひとの
しりぬ風よつまり
なるものをこ
れのことをうを
まんこうきゆく

まく又引こはよなるあるこうく
こくよふゆうてなるれ
やうなるしかをはく
りまつなきてん
ひこうよりきこうよ
やう和つなる和つく
侍なるあるよ出
へいりかゆつ和
をつんこ
こくあるこ
さけ有こ
十九日和ゆく
世をしこ

こゝまでゆゝしきものおうてぞ年
をくりいかゝくさめるまつよ月んとゝぶ
なすなかの月ゝ内海にて風なきりーうふ
拝をもやとものんこゝれり内こそいと
ちうよゆゝしうゝもゝうかけやまを
ゝ年ゝみゝさいとこゝれり 備前はる
ゆゝしあるなり 知いふうゝうゝうゝ
三河ゝゝまなすゝゝ月よ月
ゝゝ今ゝあるゝ 寿 長月
内侍山乃月ゝまは出ゝゝ
みゝゝれねゝゝよ 堅ゝ
ゝ侍ゝ今ゝ河ゝ月みるめはゝゝ紙
さたゝゝゝきゝゝゝ月ゝゝはを

そゝ部れ風れ侍部れんゝ蓋中ゝし
ゝゝてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝん
ゝかゝゝまゝ河のゝゝゝゝゝ侍ゝ
ゝ風れ侍ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
侍ゝゝせをゝゝれゝゝ侍いれゝら
父母ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
心ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ侍ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ侍ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

井上氏通女書

井上氏名通京極備中刺史家
臣儀左衛門之女幼而慧敏讀書
賦詩兼通和歌風雅才聞于季刺
史母夫人召之武江使侍左右有
年英才名藉甚一時喧傳光圀素
善倭歌聞通之才喜寄書唱酬往
来交情甚厚母夫人下世之後嫁
三田茂左衛門歸于諸列侯亀北
一冊其紀行之作也文子之有才
藻而聞操貞正若通者近世所罕
覩也況光圀之遺愛莫過焉故書
之以傳之云

跡部良顯跋之

元禄庚辰仲秋日